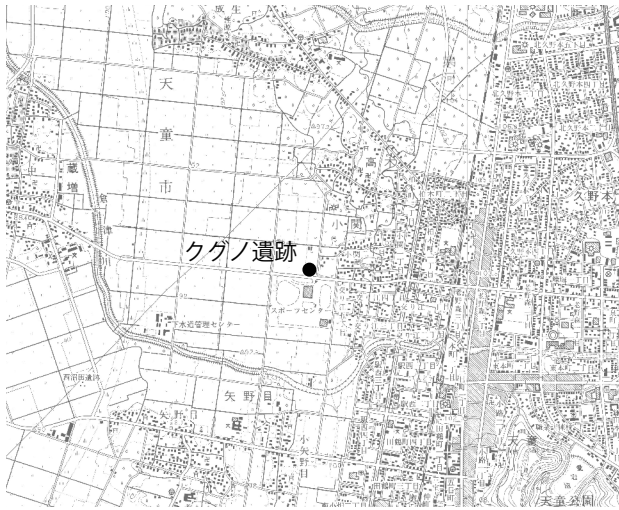


クグノ遺跡

遺 跡 番 号 平成 20 年度登録
所 在 地 天童市大字小関
北緯・東経 北緯 38 度 21 分 59 秒・東経 140 度 21 分 34 秒
調査委託者 山形県村山総合支庁建設部道路課
調 査 原 因 主要地方道天童大江線道路改良工事
調 査 面 積 1,170 m²
現 地 調 査 平成 21 年 5 月 14 日～6 月 26 日
調査担当者 武田伸一（調査主任）・須賀井明子
調 査 協 力 天童市教育委員会・山形県教育庁村山教育事務所
遺 跡 種 別 集落跡
時 代 平安時代・中世・近世・近代
遺 構 溝跡・土坑・旧河道跡・ピット
遺 物 土師器・須恵器・陶器・磁器・石製品
(文化財認定箱数：5 箱)



調査の概要

クグノ遺跡は、主要地方道天童大江線道路改良工事が開始されるのに先立ち、山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室（当時）が分布調査を行った結果、平成 20 年に新規登録された遺跡である。

今年度、財団法人山形県埋蔵文化財センターでは山形県村山総合支庁建設部道路課からの委託を受け、事業区内にかかる 1,170 m²について緊急発掘調査を実施した。

クグノ遺跡は、天童市スポーツセンターの北向かい、J R 天童駅から直線距離にして西約 1 km にあり、押切川

と倉津川に挟まれた乱川扇状地の前縁部に位置している。標高は 97 m を測り、地形は東から西へ若干傾斜している。畑地として利用されていたが、以前は水田であったとみえ、ほ場整備も実施されている。

遺構と遺物

ほ場整備により多くの遺構が削平を受けたと考えられるため、遺構の分布は全体的に希薄である。特に 1 区は希薄である。2 区ではピットが多く検出されている。また、北東から南西へ向かう旧河道があり、埋まった後にピットが掘られている。柱痕を確認できるピットもいくつかあるが、いずれも関連性は認められず、建物跡を検出するには至っていない。3 区はピットがあまり検出されず、溝跡が主体となっている。その多くは、北東から南西へ向かう旧河道とほぼ並行している。

遺物は、遺構出土の遺物が 1 区 6 点、2 区 2 点、3 区 15 点で、3 区から多く出土している。中でも 3 区の溝跡から出土した遺物は土師器や須恵器が中心である。但し、そのほとんどが覆土の 1 層目からの出土である。遺構外出土の遺物は 1 区 12 点、2 区 41 点、3 区 1 点で、2 区からの出土が突出している。その中で、土師器と中近世および近代陶磁器が大半を占める。

まとめ

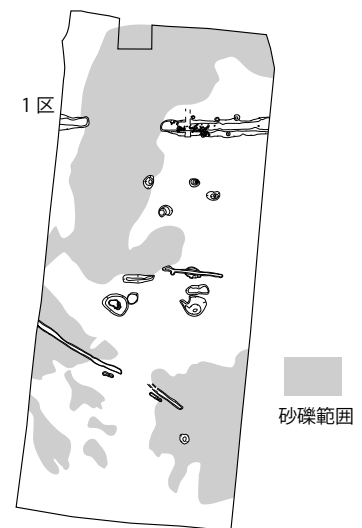
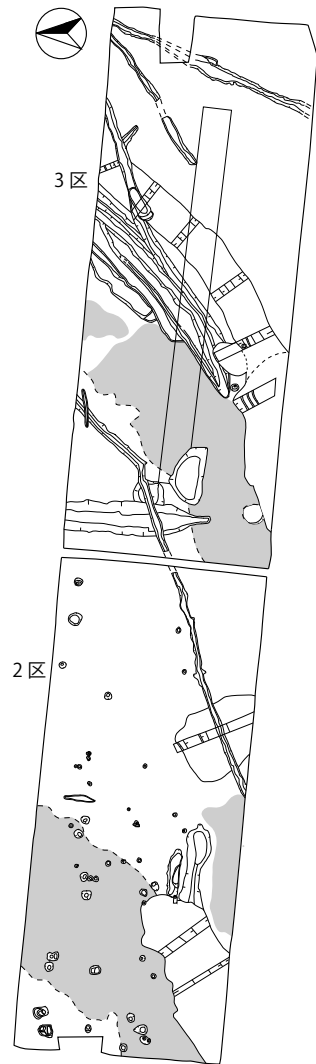
土坑・溝跡について、どのような性格であったのかなどについては不明である。出土遺物の数も少なく、内容は、わずかな縄文土器と9世紀代の土師器、須恵器、中近世・近代陶磁器などで、ほとんどは流れ込みと考えられる。一方で、周辺には多くの遺跡が存在し、また近世から現在に至るまで集落が存続している。このことから、遺跡の中心は調査区の北側にあり、調査区は集落の周辺部であったと考えるのが妥当である。



調査区遠景（南東から）



3区溝跡集中域（東から）



遺構配置図（S=1：400）